

《ディスクゴルフ》

・プラスチック製の円盤(フライングディスク)を使い、専用の鉄製バスケットに投げ入れ、スコアの少なさで勝敗を競います。

写真



起源

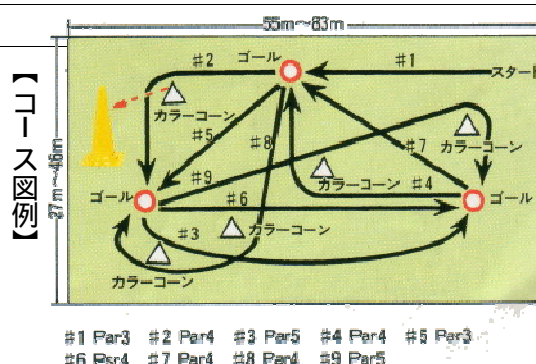
・1940 年台、アメリカのアイビーリーグのエール大学の学生たちが、キャンパス近くの「フリスビー・ペーカリー」のパイ皿を投げ合ったのが始まり。
・その光景に興味を持った、建築検査員のフレッド・モリソンが 1948 年、金属製のディスクを試作し、その後の改良で、現在のプラスチック製のディスクが誕生した。

人数

・何人でもできる。通常は、4 人～6 人 1 組で行う。

場所

・自然の地形を上手に利用し、自然を損なわずに設け、普通、ショートホールミドルホール、ロングホールの 3 ホールずつを基準とするが、場所に応じて自由に設定し、9 ホール・パー 36、又は 18 ホール・パー 72 を標準 1 コースとする。
・当施設では、D サイトの隣に 9 ホールを常設している。



進め方

・最初のスタートホールのティーショット(1 投目)の順番をジャンケンで決める。
・2 投目以降は、ディスクが止まった地点のゴール側にマーカーミニディスクを接してマークを置いてからディスクを拾い、そこに足を置いてから投げる。(相互の了解で、ミニディスクを置くことを省略しても良い。)
・2 投目以降は、投数に関係なく、ゴールから遠い人から先に投げる。
・次ホール以降のティーショットは、前ホールでスコアの良かった人から投げる。同スコアの場合は、さらに前ホールにさかのぼって決める。



勝敗の決め方

・各ホールごとに投じた数をスコアカードに記入し、最終的に 18 ホール(又は 9 ホール)を回るのがにかかった投数が最も少ない人の勝ち。
・団体対抗の場合は、合計投数の少ないチームの勝ち。

その他

・ディスクは転がしても、バウンドさせてもかまわない。
・状況に応じ、1 投ごとにディスクを交換して、使い分けることができる。
・OB 区域内(道路上や川、花壇や立ち入り禁止区域)にディスクが止まった場合は、1 ペナルティーが課せられ、OB 区域に入った地点から次のスローを行う。
・木や建物などの上にディスクが止まった場合、地面から 2m 以上の高さなら OB で 1 ペナルティー、2m 未満ならノーペナルティーで、ともにディスクの真下にマークをし、そこから通常のプレーを続ける。
・バックハンスロー、サイドアームスロー、カーブスロー、アップサイドダウンスロー、ローラー等、様々な投法があり、状況で使い分けるとおもしろい。
・フライングディスクには、「ディスクゴルフ」の他にも、多様な競技方法があるので、団体の実態に合わせて創意工夫しながら行ってかまわない。